

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は、全体的に明るく素直である。縦割り活動などで上級生と下級生とのつながりが強くなってきており、日常生活の中でも異学年で遊んだり、上級生が下級生を気遣ったりする場面が多く見られる。また、学校行事や児童会行事はもちろん、自分に任せられたことに対して、真面目に前向きに取り組むことができる。また、昨年度までの取り組みの中で、職員室への出入りの仕方やお客さんへのあいさつなどが身につけてきている。しかし、読書量には個人差があり、言葉づかいや心のこもったあいさつなどに課題がみられる。また、学習面において、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、友達の考えと比べてよりよい考えを練り上げたりすることがまだまだ身につけていない実態もみられる。それは、課題解決にむけ論理的に考えたり、それを表現したりすることが苦手だったり、自分の考えに自信がもてなかったりする子どもが多いことが要因として挙げられる。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」
～ 算数科における言語活動の充実を通して ～

3. 主題設定の理由

新学習指導要領では、言語活動の充実を重視するという方針が立てられ、各教科等の内容にも示されている。その背景として、グローバル化の進展など、急速な社会の変化に対応していく能力の育成が求められてきたこと、国内外の学力調査の結果から、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになったこと、教育基本法・学校教育法改正により、学力の重要な要素が規定されたことが挙げられる。

本校は、昨年度まで3年間、「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成 ～ 各教科等における言語活動の充実を通して ～」をテーマに、各教科等で言語活動の充実を図り、実践してきた。特に昨年度は、国語・算数・理科・生活科・図画工作・音楽・体育・外国語活動・道徳と幅広い教科・領域で言語活動を取り入れた実践を行い、交流してきた。そして、それによって、さまざまな教科における言語活動を取り入れた実践例を学ぶことができた。そこで、本年度は、全学年が取り組むことができる算数科に教科を絞って研究を進めていきたい。教科を絞ることで、目指す子どもの姿や具体的活動内容の学年ごとの系統性に意識して研究を進めていくことができると思う。そして、算数科において「伝え合う」「話し合う」活動を充実させていくために、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった基礎となる言語力の育成を目指したい。また、今年度も言語環境を整えるための日常的な取り組みを全職員で共有し、学校全体の言語力の向上を目指したい。

このように、本年度は特に算数科において「言語活動の充実」を目指すことで、課題解決にむけ自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成を図りたいと考え、「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」を研究主題として設定した。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- ①算数科における「言語活動の充実」による授業改善（理論研究）
- ②言語環境を整えるための日常的な取り組みの共有
- ③NRTの分析と結果を生かした取り組み
- ④学級集団づくり（Q-Uの分析と結果を生かした取り組み）
- ⑤授業案の作成・検討及び授業実践
- ⑥特別支援教育の学習会

(2) 研究の方法

- ①講師を招いての学習会
- ②授業研究会（2回）
- ③一人一実践の提供
（他に勝沼ブロック交流研究会で一人一実践）

年間校内研修計画

研究主任 保坂 恵

実施月日	研修内容（領域）		担当・学年	T・C 要請	
4	10	第1回	研究の方向性について	研究主任	
	17	第2回	研究主題・内容・方法・組織・年間計画	研究主任	
5	22	第3回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
	29	第4回	特別支援教育についての学習会	特別支援担当	
6	19	第5回	言語活動の充実についての学習会	研究主任	○
	26	第6回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
7	10	第7回	各ブロックの研究（Q-Uの結果分析・課題）	ブロック長	
8	21	第8回	Q-Uの結果分析・課題	研究主任	
	28	第9回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
9	4	第10回	授業案検討	研究主任	
10	9	第11回	研究授業・研究会	ブロック長	○
	16	第12回	授業案検討	ブロック長	
	23	第13回	各ブロックの研究(授業づくり)	研究主任	
	30	第14回	研究授業・研究会	研究主任	○
11	6	第15回	ブロック交流に向けて	研究主任	
12	4	第16回	Q-Uの結果分析・課題	研究主任	
1	24	第17回	各ブロックのまとめ(授業づくり)	ブロック長	
2	19	第18回	研究紀要に向けての準備 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトのまとめ	研究主任 部会長	
	26	第19回	研究の成果と課題のまとめ 来年度の研究の方向性について	研究主任	
3	5	第20回	研究紀要作成	研究主任	

※この他に、研究テーマに沿って全職員が授業実践を行い、お互いに授業を参観することにより、研究を深める。